

# 「被災宅地危険度判定」と「被災建築物応急危険度判定」

## ◆被災宅地危険度判定

大規模な地震や大雨などによる宅地災害の被害状況を迅速かつ的確に把握したうえで危険度を判定し、住民の皆さんに情報提供を行うことにより、2次災害の軽減・防止を図るものです。

判定結果は、次の3種類のステッカー(A3)を現地の見えやすい場所に貼り付けて表示します。

## ◆被災建築物応急危険度判定

地震で被災した建物について、余震で倒壊するなどの危険性があるかどうかを判定します。判定は、国や地方公共団体、建築関係団体などが連携し、被災地域に判定士を派遣して行います。

判定結果は、次の3種類のステッカー(A3)を建物の出入口などに貼り付けて表示します。

※判定結果は、隣接建築物や周辺地盤の影響による可能性もあります。判定理由をご確認ください。

危険・要注意などの記載があっても、今後建物に住めないというわけではありません。

## ◆その他の建物の判定

地震発生後の建物の判定には、次のようなものもあり、それぞれ判定の目的や基準が異なります。

- 住家被害認定 「り災証明書」を発行する目的で被害の程度を認定するものです。
- 被災度区分判定 建物の復旧対策を検討する目的で応急危険度判定後に建物の被災度を詳細に判定するものです。

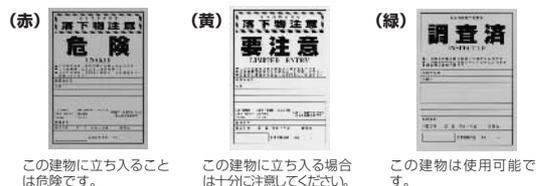
それぞれの目的をご理解いただき、判定のための調査の際には、皆様のご協力をお願いします。

○お問い合わせ 本庁 住民課 資産税係 ☎43-2816  
まちづくり課 土木係 ☎43-2115

### 被災宅地危険度判定ステッカー



### 被災建築物応急危険度判定ステッカー



## 健康知恵袋

### フレイル予防のための食生活

#### ～低栄養に気をつけよう～

年齢を重ねると食が細くなり、活動量が減ることで食欲も低下しがちです。しかしそれでは、痩せて筋肉量が減少し、低栄養になり、さらなる体力低下につながる悪循環のきっかけに。低栄養状態になると、血管の壁がもろくなったり、ウイルスに対する抵抗力が衰えたりします。体の状態を把握し、栄養状態を高める食生活を心がけましょう。

#### 体重の変化や検査値を確認しよう

- BMIが18.5未満は「やせ」です。※BMI=体重(kg)÷身長(m)÷身長(m)
  - 1～6カ月間に体重が3%以上減少 体重の急激な減少に注意します。
  - 血清アルブミン値が「3.8g/dl」以下 栄養状態に注意が必要です。
- ※血清アルブミンはタンパク質の一種で、体の栄養状態を図る指標です。

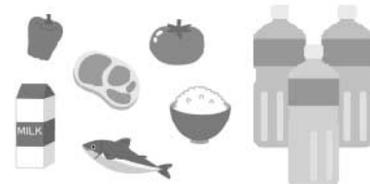


#### 毎日食べていますか？10種類の食品

厚生労働省が推奨する「10種類の食品」とは、肉、魚介類、卵、大豆・大豆製品、牛乳、緑黄色野菜、海藻類、いも類、果物、油を使った料理の10品目のことをいいます。これらの食品を毎日バランスよく摂取することで、健康的な食生活を送ることができます。

#### 毎日の食事で気をつけたいこと

- 1日3回、主食・主菜・副菜をそろえて食べる。欠食はしない。
- たんぱく質(肉・魚・卵・大豆・牛乳など)を十分に食べる。
- 食欲がないときは、おかずから先に食べてから、ご飯は残すようにする。
- 水分を十分にとる。



○お問い合わせ 本庁 健康福祉課 保健衛生係 ☎43-2836  
佐賀支所 地域住民課 保健センター ☎55-7373